

東北学院大学の教育理念

東北学院は1886年（明治19年）、日本人最初のプロテスタントの一人押川方義と、アメリカから派遣された宣教師W. E. ホーイ、その後加わったD. B. シュネーダーの協力によって、はじめ牧師養成のための仙台神学校として創設され、5年後に英語教育を中心に置く中等教育を施す東北学院へと拡大しました。近代国家日本の歩みと共に成長し、第2次世界大戦の時代には校舎の焼失など、苦難に遭遇しましたが存続し、1949（昭和24）年、新制大学をスタートさせたのです。

東北学院の「建学の精神」は、宗教改革者ルターとカルヴァンにルーツをもつ福音主義キリスト教です。神を信じ、隣人を愛する生き方を教えることを根源におきます。伝統のスクールモットーはLife, Light and Love for the Worldであります。これを受けて大学の学則第1条には「キリスト教による人格教育を基礎として、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって世界文化の創造と人類の福祉に寄与することを目的とする」と定められています。

個々の人間を尊び、自らの決断によって神を信じ、その全能力をもって神に仕え、社会と人に奉仕し、その発展に尽くす、そのような人間へと成長させ、またそのための基礎的な教養と専門的知識を自らのものにできるように育成する、これが本学の教育理念であります。

入学された新生の皆さんに、これから経験する授業とキャンパスライフが、本学の「建学の精神」とどう関わるのか、それはこれから皆さんが授業や礼拝に出席することによって学んでいってほしいのですが、大事だと私が思うことを一つ記しておきます。それは学院大学生はいつも神に見守られ、導かれている、ということです。皆さんが自覚しなくとも、です。またこれは、いつも楽しく快適で、苦しいことなど何もない、ということにはなりません。むしろ学問的に、あるいは対人的に、苦難にぶつかることが多いでしょう。それでも、皆さんの存在を超えた神がおられる、決して絶望することはない、安んじてそれらの苦難に誠実に立ち向かえばよい、ということなのです。

本学は人文社会系から自然科学系まで、6つの学部からなる総合大学です。基礎的な教養教育から各専門分野の教育まで、カリキュラムが用意されています。特に4年後、社会人として巣立ってゆくための教養教育として、英語と、基礎的諸科目（TGベーシック）、さらに東日本被災地復興のために学ぶ科目、などの新しい授業を設けています。オリエンテーションや学内コンシェルジュを活用して、皆さんにぴったりあった授業計画を立ててもらいたいと思います。より高度な専門教育を希望する皆さんには、6つの大学院研究科があることも知ってほしいと思います。

大学の授業は、学生の主体的姿勢を求めます。それは「学習から学修へ」という表現で言い表されます。聴講するのが中心の授業もありますが、学生が問題を見つけ、ITリテラシーを活用して調べ、まとめて発表して評価し合う、「アクティブラーニング」という授業も増えています。成績の評価方法も、より詳細に表記する方向にありますし、受講する皆さんによる教員の授業への評価もしてもらっています。大学での学びを充実させ、学んだことを真に理解してもらい、卒業した後も役立つようにと考えています。それだけに皆さんにも、真摯で厳しい授業姿勢が求められるのです。

本学のこのような教育理念と、授業内容をよく知って、大学生活のスタートを切ってください。そのためにこのシラバスを大いに活用していただきたいと願うものです。



学長

大西晴樹